

令和7年度入札監視委員会定例会議 議事概要

開催日及び場所	令和7年12月24日(水) パブリック2号館1階会議室(九州大学伊都キャンパス内)	
委員	委員長 三浦 邦俊 (三浦邦俊法律事務所) 委員 日高 圭一郎 (九州産業大学建築都市工学部) 委員 深海 博晶 (糸島市経営戦略部契約検査課)	
審議対象期間	九州大学、福岡教育大学、九州工業大学 令和6年7月～令和7年6月	
抽出案件(合計)	5件	(備考)
工事(小計)	4件	今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
一般競争 (政府調達協定対象工事)	0件	委員より抽出された案件について個別審議を行った。
一般競争 (政府調達協定対象工事を除く)	3件	その際、説明資料に基づき各発注機関の担当者から説明を行い、質問等への回答を行った。
公募型指名及び 工事希望型競争	0件	
通常指名競争	0件	
随意契約	1件	
設計・コンサルティング業務	1件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問 別紙のとおり	回答 別紙のとおり
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	なし	

質問	
九州大学	
(1) 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について	
資料1：総括表（建設工事） (令和6年7月～令和7年6月契約分) ・特になし	
資料2：総括表（設計・コンサルティング業務） (令和6年7月～令和7年6月契約分) ・特になし	
資料3：指名停止等一覧表 (令和6年7月～令和7年6月契約分) ・特になし	
(2) 抽出された建設工事等の審議について	
資料4：（医病）別府病院改修工事【総合評価落札方式（実績評価型）】	
・資格設定をしているが、有資格者、申請可能な業者数はどの程度を見込んでいたのか。 ・患者さんが病院にいたままの改修工事か。業者さんがやりたがらない工事なのか。 ・いながら改修であることを考慮しているのか。	・金額で等級を設定し、今回はA等級対象の金額で下位1級まで対象を拡大している。少なくとも大分県内に本社を構える業者はA等級は4社、B等級は41社あり、必ずしも大分県に本社を構える必要はないため、全国で考えると何百、何千といった業者数が申請可能であったと見込まれる。 ・そのとおり。いながら改修となるため参入業者数が少なくなったと考えられる。 ・仮設の間仕切りで患者さんのいる場所と工事箇所を区切って対応している。仮設間仕切り等の費用は見込んで算出している。
資料5：（医病）別府病院改修電気設備工事【随意契約（不調随契）】	

質問	
<ul style="list-style-type: none"> ・このような不調、不落隨契の案件は増える傾向にあるのか。 ・建築施工管理技士は通常1社に1人程度しかいないものなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰、技術者不足の要因がある。通常は2回の公告で契約に至るケースが多いが、今回は4回公告をしており、まれなケースではあると思う。 ・A、B等級の業者では通常は複数名いることが多い。ただ、複数の工事案件があるため、そこに入人が張付けられると不足していくことになる。
資料6 : (筑紫) 基幹・環境整備(排水設備2期) 土壌汚染状況調査業務【一般競争入札(最低価格落札方式)】	
<ul style="list-style-type: none"> ・なぜこのように安価になったのか。 ・実際に問題はなかったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業努力によるものと考える。応札社数は7社であり、7社のうち6社が本学の予定価格の8割を超える額で応札しており、そのうち3社は9割を超える額であったことから、積算は基準要領に従って立てたもので、適正であると考える。7社のうち1社だけがこのような安価な額で応札してきたものであり、業者へのヒアリングの回答でも、これまでの経験、ノウハウから企業努力でこのような価格にできたとの回答であった。 ・問題なかった。調査結果も適切に提出されている。

質問	
福岡教育大学	
(1) 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について	
<p>資料1：総括表（建設工事） (令和6年7月～令和7年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし <p>資料2：総括表（設計・コンサルティング業務） (令和6年7月～令和7年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし <p>資料3：指名停止等一覧表 (令和6年7月～令和7年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
(2) 抽出された建設工事等の審議について	
資料4：（赤間）家政教棟トイレ改修機械設備工事【一般競争入札（最低価格落札方式）】	
<ul style="list-style-type: none"> 応札者が1社ということで、競争参加資格を満たす業者が少なかったのが原因だと思われるが、配置技術者の要件について必ずしも国家資格保有者ではなく、建設業法で定める実務経験を有する者に拡大することも検討した方が良かったのではないか。 技術者が必要である場合とそうでない場合の要件の違いは何か。 発注時期は選びにくいのか。 1社入札になってしまった原因は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> 業者へのヒアリングによると、時期的に技術者の確保が難しい時期であったということだった。配置技術者に係る要件は緩和しても良かったのではと感じている。 建設業法により、技術者を配置する必要がある。工事の規模や内容によって求める資格を緩和することができるが、本工事は簡易的な工事であったことから、更に緩和する余地はあったと考えている。 発注の平準化を行っているが、他案件の影響もあり、この時期になってしまった。 主に和便器を洋便器に変える工事であり、既設配管を利用するため、業者にとって十分な利益を確保しにくい工事だったのが原因と考える。
九州工業大学	
(1) 建設工事及び設計・コンサルティング業務に関する入札・契約手続の運用状況等の報告について	
<p>資料1：総括表（建設工事） (令和6年7月～令和7年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	

質問	
<p>資料2：総括表（設計・コンサルティング業務） (令和6年7月～令和7年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし <p>資料3：指名停止等一覧表 (令和6年7月～令和7年6月契約分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 	
<p>（2）抽出された建設工事等の審議について</p>	
<p>資料4：（飯塚）研究棟西棟改修Ⅱ期工事【総合評価落札方式（実績評価型）】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 予定価格の設定にあたって、労務賃や材料費等最新のものを適用していると思うが、実際の落札額と開きがでている点について、どのように認識しているか。 建設業界の動き、経済的動きはどのように情報収集しているのか。 不落を一番避けたいのか。 タイミングの問題も大きいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 労務単価というより、材料費等の見積額の開きが原因と考える。メーカーから発注者が取り寄せる見積には上振れリスクが含まれているが、メーカーが受注者に示す見積は実勢価格で値引いた額が提示されているのが原因と思われる。 市況の動きは物価高騰で上昇トレンドであるが、今回の工事は公告を早く行うことができたことから、業者側も技術者が確保でき、受注したい工事ととらえて、リスクをとって安価にしてきたのではないかと推察できる。これをもって予定価格の遞減率をもっと下げるということも考えられるが、物価高騰する中、不落のリスクを考えると慎重にならざるを得ない。 そのとおり。低入札という問題もあるが、今回5社参入があったため、競争が働いたと考えている。 できるだけ第一四半期に発注できるように、さらに発注時期を平準化できるように心がけている。今回の業者については、同じ敷地内で別の新規工事を既に受注しており、発注ロット的にも資材を安価で調達でき、メーカー側としても継続取引ができるということで、このような結果になったと考える。
<p>委員総評 (九州大学、福岡教育大学、九州工業大学3大学全体について)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 全体的には問題なく運営されていると思う。一つあげるとすると、入札参加者数の増加に向けて、競争参加資格の要件緩和を検討いただければ、より一層競争が働くのではないかと考える。 入札については問題ないと考える。今回の審議対象となった案件を見ると、技術者不足等で発注したくても発注できない案件が見受けられる。今後、早期発注をはじめとして、業者さんの参加意欲を高めるような取り組み、工夫が求められる。 	

質問

・各大学ともスキルアップしており、一つ一つの案件について競争が働くように考えられている。問題があつた案件については抽出しこの場で審議され、抽出された課題以外もフォローして原因分析されており、入札監視委員会がしっかり機能していると考える。昔は業者にとっておいしいと思われていた官工事も、社会経済的因素として、人手不足、材料費高騰により、官工事といえどもしたくない、できないという時代になっている。そのような中で競争が働くように発注していかなくてはならない。また、設備がしっかりしていない若い人が大学に来てくれない、といった話もある。人材確保のためにも、せっかくこの委員会で集まっている3大学合同で予算の入りの分でも工夫して要求する等、国の厳しい財政状況の中でも予算確保していただき、島国日本の大切な人材育成のために各大学にがんばっていただきたい。